

2022年11月8日

## 2023年3月期（2022年度）第2四半期連結決算 電話会議 内容説明スクリプト

### I. 全般概況

本日発表いたしました当社2023年3月期第2四半期決算の概要についてご説明します。決算短信の表紙サマリーをご覧ください。

#### 1. 2023年3月期 第2四半期連結決算 業績概要

##### 1) 当年度第2四半期連結累計期間の経営成績

- ① 売上高 7,106 億円、前年同期比 1,127 億円の増収  
(売上総利益 1,688 億円、前年同期比 541 億円の増益)
  - ② 税引前利益 1,691 億円、前年同期比 474 億円の増益
  - ③ 四半期利益 1,255 億円、前年同期比 53 億円の増益
  - ④ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 1,191 億円、前年同期比 53 億円の増益
- と、前年同期に対して増収・増益となりました。

##### 2) 当年度第2四半期累計連結決算の概況

当年度第2四半期累計連結決算の概況をご説明いたします。決算短信添付資料の2ページをご覧ください。

###### 《為替相場、金属価格》

為替相場は、日米の金融政策の相違による金利差拡大や日本の貿易赤字の拡大に伴う円売りドル買い取引の増加などにより、急速に円安が進行し平均為替レートは前年同期間と比べ大幅な円安となりました。

銅価格につきましては、世界経済の成長減速などにより当第2四半期連結累計期間を通して下落基調となり、前年同期間を下回りました。ニッケル価格は、前連結会計年度末にかけて急騰した後、世界経済の成長減速などにより下落基調に転じましたが、その後堅調な需要に支えられ底堅く推移し前年同期間を上回りました。金価格は、米国の政策金利引き上げなどにより下落基調となったものの、前年同期間と概ね同水準となりました。

###### 《売上高、損益》

当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、大幅な円安、ニッケルの平均価格上昇、車載用電池向け部材の増販などにより、前年同期間に比べ1,127億円増加し、7,106億円となりました。連結税引前四半期利益は、増収に加え円安などによる金融収益の好転などにより、前年同期間に比べ474億円増加し、1,691億円となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、シエラゴルダ銅鉱山関連の繰延税金資産を計上した前年同期間と比較して法人所得税費用が増加したものの、連結税引前四半期利益が増加したことにより、前年同期間に比べ53億円増加し、1,191億円となりました。

### 3) トピックス

当期決算におけるトピックスについてご説明します。生産量については、決算補足説明資料の7ページをご参照ください。

#### ① 海外銅鉱山

##### 《モレンシー》

生産量は、新型コロナウイルス感染症対策として実施していた選鉱場の操業度低下策の終了などにより、前年同期間を上回る 204 千 t となりました。

##### 《セロ・ベルデ》

生産量は、給鉱品位の上昇や選鉱場の稼働率上昇などにより前年同期間を上回る 217 千 t となりました。

#### ② タガニート HPAL

生産量は、設備トラブルによる減産があったものの、前年同期間を上回る 14.2 千 t となりました。

#### ③ CBNC (コーラルベイ)

生産量は、悪天候の影響による減産があったものの、定期メンテナンス日数の短縮に努め、前年同期間並みの 9.3 千 t となりました。

#### ④ 材料事業

中国における電子部品向け部材の需要が縮小傾向に転じたものの、急速に進むカーボンニュートラルへの取り組みを背景に需要が堅調である車載用電池向け部材の増収などにより、売上高は前年同期間を 262 億円上回る 1,597 億円となりました。

## 2. 2023 年 3 月期 通期連結業績予想

本年 8 月に通期の業績予想の見直しを公表いたしましたが、今回、再度これの見直しを行いました。決算短信の表紙サマリー下段、決算短信添付資料の 5 ページ、および決算補足説明資料の 1 ページ下段をご覧ください。

### 1) 売上高および損益

2023 年 3 月期の通期の連結業績予想は、

- ① 売上高 1 兆 3770 億円、8 月予想比 200 億円の増収
- ② 税引前利益 2,010 億円、8 月予想比 170 億円の減益
- ③ 親会社の所有者に帰属する当期利益 1,370 億円、8 月予想比 110 億円の減益

業績予想の前提となる金属価格および為替レートは、決算短信添付資料の 5 ページならびに決算補足説明資料の 1 ページ下段に記載のとおりです。金属価格については、銅および金は 8 月予想を下回りますが、ニッケルはほぼ横ばいとなることを見込んでおり、平均為替レートは 8 月予想に対して円安で予想しております。

## 2) トピックス

業績予想におけるトピックスについて概況をご説明します。生産量については、決算補足説明資料の 7 ページをご参照ください。

### ① 菱刈鉱山

21 中計で発表したとおり、2022 年度からマインライフ延長に向けたサステナブルな生産体制へ移行するため、年間の金生産量は 4.4 トンで計画しており、第 2 四半期累計期間の販売実績は 2.4 トンとなりました。なお、11 月 4 日公表のとおり、海拔マイナス 80 メートルに設置した坑内の温泉をくみ上げて水位を低下させる設備の稼働により、これまで水位以下にあった鉱体が開発可能な状態になったことから、その採掘を開始いたしました。

### ② 海外銅鉱山

#### 《モレンシー》

新型コロナウイルスおよび夏期の天候不順により採掘が計画未達となった影響から、5 月計画時の年間生産量から減産を見込んでいます。

#### 《セロ・ベルデ》

一時的な品位の低下傾向を処理量増でカバーする操業を続けており、5 月計画時の年間生産量は若干下回りますが、概ね順調な操業を続けています。

#### 《カンデラリア》

オホスデルサド鉱山付近に発生した陥没孔の影響等もあり、5 月時計画の年間生産量は若干下回りますが、概ね順調な操業を続けています。

### ③ タガニート HPAL

第 2 四半期に発生した設備トラブルの影響による減産により、5 月時計画の年間生産は若干下回りますが、下期は概ね順調な操業を続けており、若干下期の 5 月時計画を上回る見込みです。

### ④ CBNC (コーラルベイ)

第 1 四半期の悪天候の影響による減産により、5 月時計画の年間生産量は若干下回りますが、下期は概ね順調に操業を続けており、下期は 5 月時計画通りの生産を見込んでいます。

## 3. 配当

配当についてご説明いたします。

決算短信の表紙サマリー、および本日公表しました「2023 年 3 月期 剰余金の配当及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

第 2 四半期連結累計期間の業績が確定したこと、並びに通期連結業績予想を修正したことにより、当社の 2021 年中期経営計画（対象期間：2022～2024 年度）における利益配分に関する方針「剰余金の配当は連結配当性向原則 35%以上とする」に基づき、第 2 四半期末の配当額並びに期末の配当予想の見直しを行いました。

その結果、1 株当たりの年間配当金は、前回発表と同額の 175 円となる予定であります。中間配当金と期末配当金の配分等を総合的に判断した結果、中間配当となる第 2 四半期末配当を前回発表予想から 1 株当たり 3 円増配の 90 円といたします。また、期末配当の予想については前回発表予想の 1 株当たり 88 円に対し 3 円減配し、85 円といたします。

なお、今回の 1 株当たり年間配当予想 175 円は、2021 年度の 1 株当たりの年間配当金 301 円（中間 113 円、期末 188 円）からは年間 126 円の減配となりますが、1 株当たりの配当金額としては、過去 2 番目の水準です。

## II. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

ここからは、決算補足説明資料について、ポイントとなる部分のみご説明いたします。

### 1. 1 ページ 決算・予想比較

#### 1) 2022 年度第 2 四半期累計決算 vs 2021 年度第 2 四半期累計決算

1 ページ目上段の表が当期第 2 四半期累計決算の前年同期比較となります。

表の脚注の記載【前年同期比較 2022 年度 2Q 累計決算 vs 2021 年度 2Q 累計決算 ①－②】の税引前利益増減分析をご覧ください。

税引前利益 474 億円増益の要因のうち、相場要因好転+608 億円以外の主な項目をご説明いたします。コスト差については、エネルギー価格等の高騰を受けた国内・外の主要拠点での悪化により、トータル▲223 億円の悪化となりました。材料事業については、中国の都市封鎖による経済活動の停滞の影響を受けたものの、金属価格の上昇による建値差の好転などもあり、+47 億円の増益となりました。なお、Sierra Gorda 利益▲61 億円は、2022 年 2 月にクロージングいたしました権益譲渡による一過性要因で、昨年発生した利益が剥落するためです。その他の▲53 億円には、副産品や、相場要因や材料に含まれない持分法会社の損益増減など様々な要因が含まれています。

#### 2) 2022 年度第 2 累計四半期決算 vs 2022 年度第 2 四半期累計予想（8 月）

2022 年度第 2 四半期累計の実績と 8 月予想の比較について、上段の表と表の下にある脚注記載【予想比較 2022 年度 2Q 累計決算 vs 予想（8 月） ①－③】の税引前利益増減分析をご覧ください。

税引前利益+201 億円増益の要因のうち、相場要因による好転+21 億円以外の主な項目をご説明します。コスト差は前年同期比較同様、主にエネルギー価格等の高騰によるもので、▲31 億円の悪化となりました。材料については、金属価格上昇により電池材料を中心に+42 億円の増益となりました。販管費については、研究開発費の時期差等により、+27 億円の増益要因となりました。その他の+71 億円は、相場要因や材料に含まれない持分法会社の損益増減や未実現利益消去など様々な要因が含まれています。

#### 3) 2022 年度予想（11 月予想） vs 2022 年度予想（5 月予想）

2022 年度の 11 月予想と 5 月予想の比較について、下段の表と表の下にある脚注記載【2022 年度予想（11 月） vs 2022 年度予想（5 月） ③－④】の税引前利益増減分析をご覧ください。

税引前利益+70 億円増益の要因のうち、相場要因による好転+432 億円以外の主な項目をご説明します。数量差は、主に電気ニッケルやフェロニッケルの減販により、▲97 億円の悪化を予想しています。コスト差については、エネルギー価格等の高騰の影響をうけて▲367 億円の悪化を予想しています。支払利息等は政策金利の上昇や円安による換算により▲53 億円の悪化を予想しています。その他の▲54 億円は、相場要因や材料に含まれない持分法会社の損益増減や副産品の影響など様々な要因が含まれています。

#### 4) 2022 年度下期予想（11 月予想） vs 2022 年度第 2 四半期累計決算

2022 年度の下期予想（11 月）と 2Q 累計決算の比較について、下段の表と表の下にある脚注記載【下期予想（11 月） vs 2Q 累計決算 ②－①】の税引前利益増減分析をご覧ください。

税引前利益▲1,372 億円減益の要因のうち、相場要因による悪化▲678 億円以外の主な項目をご説明します。その他の為替差損益について、為替レートの与件は 2Q 累計実績に比べて下期予想を円安方向で想定しているものの、2Q 累計期間中ほどは円安方向に進まない想定であることから、▲174 億円の悪化を予想しています。材料については、電池材料の受払差の悪化に加えて、機能性材料では電子部品需要の減少と在庫調整の長期化の影響をうけ、▲231 億円の悪化を予想しています。副産品については硫酸等の価格下落により▲90 億円の悪化を予想しています。その他の▲90 億円は、相場要因や材料に含まれない持分法会社の損益増減や未実現消去等の影響など様々な要因が含まれています。

#### 5) 2022 年度予想（11 月予想） vs 2022 年度予想（8 月予想）

2022 年度の 11 月予想と 8 月予想の比較について、下段の表と表の下にある脚注記載【2022 年度予想（11 月） vs 2022 年度予想（8 月） ③－⑤】の税引前利益増減分析をご覧ください。

8 月予想は、第 1 四半期決算発表時の説明のとおり、第 2 四半期累計予想をスタート地点とし、主要鉱山・製錬所・電池材料の下期の生産・販売量は 5 月公表時の計画を使用し、中国経済の停滞の影響が出ている機能性材料については、見直し後の下期の販売量を使用しました。また、エネルギー等の一部資材の高騰の影響や当時把握していた特殊要因についても織り込んだうえで、業績に大きく影響を及ぼす市況影響については感応度を利用して算出いたしました。

税引前利益▲170 億円減益の要因のうち、相場要因による好転+40 億円以外の主な項目をご説明します。数量差については主に海外銅鉱山の数量減をうけ▲50 億円の悪化を予想しています。コスト差については、8 月予想以上にエネルギー価格等の高騰が見込まれることから▲170 億円の悪化を予想しています。

### 2. 3 ページ セグメント別対前年実績比較（売上総利益増減）

3 ページ セグメント別の対前年実績比較をご覧ください。

資源セグメントの売上総利益は 425 億円と▲33 億円の減益となりました。ページ中央の増減説明に記載のとおり、菱刈鉱山、海外銅鉱山ともに円安による為替差の好転はあったものの、菱刈鉱山での減産による数量差や、菱刈鉱山、海外銅鉱山でのコスト単価差の悪化が主な要因です。

製錬セグメントの売上総利益は 1,010 億円と 457 億円の増益となりました。下段の増減説明のとおり、銅系で+246 億円、ニッケル系で+112 億円の好転です。コスト単価差は銅系、ニッケル系ともにエネルギー価格等の上昇の影響を受け、減益要因となりました。一方で、価格条件差がニッケル系の価格上昇により大きく好転していることに加え、在庫評価では、銅系では円安の、ニッケル系では価格上昇と円安の効果により大きく好転しています。

### 3. 4 ページ セグメント別対前年実績比較（材料事業の製品群別売上高）

4 ページ上段、材料事業の製品群別売上高のうち、電池材料については、堅調な需要と金属価格上昇により+313 億円増収の 939 億円となりました。その他機能性材料等については、中国の都市封鎖等に伴う電子部品向けの需要減により、▲51 億円減収の 658 億円となりました。

#### 4. 4 ページ セグメント別対前年実績比較（持分法投資損益）

4 ページ中央、当期の持分法投資損益については、セロ・ベルデ、カンデラリアにおいては数量増加および円安の効果により増益となりましたが、第 1 四半期同様に権益譲渡に伴うシエラゴルドの利益 61 億円の剥落等の影響により、前期比▲47 億円減益の 197 億円となりました。

#### 5. 5 ページ セグメント別業績予想比較 2022 年度予想（11 月）vs（5 月）

5 ページ上段をご覧ください。2022 年度の前回予想（5 月）と今回見直した予想（11 月）のセグメント別比較です。業績予想の数値は 10 億円単位の丸め数字で記載しています。

資源セグメントの売上総利益は 680 億円と▲160 億円の減益と予想しています。ページ中央の増減説明に記載のとおり、海外銅鉱山・主にモレンシーは価格の下落に加え、コスト増、数量減を見込むことから減益を予想しています。一方、菱刈鉱山は 5 月の想定ほどコスト増の影響を受けず、また為替も円安を見込むことから、増益を予測しています。なお、菱刈鉱山の年間販売量は 4.4 トンから変更はありませんので、生産数量は第 3・4 四半期で調整される計画です。

製錬セグメントの売上総利益は 1,440 億円と 360 億円の増益と予想しています。下段の増減説明のとおり、銅系で+436 億円の好転を見込むものの、ニッケル系は▲164 億円の減益を予想しています。銅系では、コスト単価は悪化するものの、為替の円安の効果により在庫評価の大幅好転を予想しています。ニッケル系でも、価格上昇と為替の円安の効果による在庫評価好転で利益の押し上げは見込まれるものの、エネルギー価格等の上昇によるコスト増と減販により、減益の見通しです。その他は、記載のとおり、グループ会社間のセグメント内消去等です。

#### 6. 6 ページ セグメント別通期業績予想比較（材料事業の製品群別売上高）

6 ページ上段、材料事業の製品群別売上高について、材料事業全体の売上高は▲50 億円減収の 3,150 億円と予想しています。電池材料については、堅調な需要と金属価格の上昇により 160 億円増収の 1,930 億円を予想しております。一方で、機能性材料等では、中国の都市封鎖による経済活動の停滞を背景に▲210 億円減収の 1,220 億円と予想しています。

#### 7. 6 ページ セグメント別通期業績予想比較（持分法投資損益）

6 ページ中央の持分法投資損益については、5 億円刻みの丸め数字で記載しています。

持分法投資損益全体としては、▲125 億円減益の 265 億円と予想しています。

特に、セロ・ベルデ、カンデラリア、オホスともに、為替の円安の効果はあるものの、金属価格下落の影響が大きく、合計で▲100 億円の減益を見込んでいます。

以上